

2018年12月21日

中日本高速道路株式会社

2019年3月期 中間決算（連結）の概要

1. 業績の概況

当中間連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2018年9月30日）（単位：億円）

	2018年度 上期実績 A	2017年度 上期実績 B	増 減	
			金額 A-B	% A/B*100
営業収益	4,428	4,000	427	110.7
高速道路事業	4,107	3,696	411	111.1
(料金収入)	3,533	3,489	43	101.2
(道路資産完成高)	568	200	367	283.1
(その他)	5	5	▲ 0	95.8
関連事業	321	304	16	105.4
(休憩所事業)	168	165	3	102.3
(その他)	152	139	12	109.2
営業費用	4,214	3,805	409	110.8
高速道路事業	3,925	3,533	391	111.1
(道路資産賃借料)	2,509	2,487	21	100.9
(道路資産完成原価)	568	200	367	283.1
(管理費用等)	847	845	2	100.2
関連事業	288	271	17	106.5
(休憩所事業)	134	133	1	100.9
(その他)	154	138	16	111.9
営業利益	214	195	18	109.4
高速道路事業	181	162	19	111.9
関連事業	32	33	▲ 0	97.2
経常利益	222	202	20	110.0
中間純利益 ^{※1}	145	289	▲ 143	50.5

※1 中間純利益は、「親会社株主に帰属する中間純利益」を記載しています。

※2 実績金額は、億円未満の端数を切り捨てて表示しております。

(注) 当社グループは、経営組織の形態と事業の特性に基づいて、事業を以下のように区分しています。

事業	業務内容	
高速道路事業	建設事業	高速道路の新設、改築
	保全・サービス事業	高速道路の維持、修繕、災害復旧その他の管理
関連事業	休憩所事業	高速道路内におけるサービスエリアの建設、管理及び運営
	その他（関連）事業	受託事業、トラクターミナル事業、占用施設活用事業、物販事業、旅行事業、海外事業、不動産開発事業 等

2. トピックス

(1) 高速道路事業

(実施した施策)

○ネットワークの整備

2019年3月期の下期で以下の新規供用を予定しています。

- | | | |
|--------------------|--------------------|------|
| ・新東名高速道路 | 厚木南 IC～伊勢原 JCT 間 | 4km |
| ・新名神高速道路 | 新四日市 JCT～亀山西 JCT 間 | 23km |
| ・中部横断自動車道 | 新清水 JCT～富沢 IC 間 | 21km |
| ・東海北陸自動車道 (4車線化事業) | 白鳥 IC～飛騨清見 IC 間 | 41km |
| ・東海環状自動車道 | 大安 IC～東員 IC 間 | 6km |

※IC…インターチェンジ、JCT…ジャンクション

(上期業績)

○営業収益は、4,107億円(前年同期比411億円増)となりました。

- ・料金収入は、3,533億円(同43億円増)でした。これは、特に大型車の交通量が昨年度に引き続き堅調に推移したことなどによるものです。

また、1日あたりの通行台数は199万台(同1.0%増)でした。

- ・道路資産完成高は、568億円(同367億円増)でした。これは、東海北陸自動車道4車線化事業の一部完成や富士吉田西桂スマートインターチェンジの開通などに伴い道路資産完成高を計上したことによるものです。

○営業費用は、3,925億円(同391億円増)となりました。

- ・道路資産賃借料は、2,509億円(同21億円増)でした。
- ・道路資産完成原価は、568億円(同367億円増)でした。(要因は、道路資産完成高と同様)
- ・管理費用等は847億円(同2億円増)となりました。これは、点検や維持補修など着実な業務執行によるものです。

○上記の結果、営業利益は181億円(同19億円増)となりました。

(2) 関連事業

(実施した施策)

○魅力あるサービスエリアづくり

- ・北陸自動車道 小矢部川サービスエリア(下り線)、東名高速道路 牧之原サービスエリア(下り線)等、既存サービスエリアにおいて、お客さまニーズをとらえた店舗の配置の見直しやコンビニの新設、コインシャワーの増設等、各種サービスを充実させることによるリニューアルを進め、利便性を向上させました。
- ・沿線地域の方々にもサービスエリアをご利用いただけるよう、一般道からの出入り口「ぷらっとパーク」を、新たに東名高速道路 富士川サービスエリア(下り線)に整備しました。

○農業など新たな取り組み

- ・地域が抱える課題の解決及び地域活性化への貢献、並びに当社の収益事業展開等を目的として、当社と株式会社鈴生の共同出資により、中日本ファームすずなり株式会社を設立し、浜松市内において、野菜(レタス・枝豆)の栽培を開始しました。
- ・運輸業界におけるトラックドライバーの長時間労働の改善や労働力確保等の課題解決の一助として、遠州トラック株式会社と共同で、中継物流拠点を新東名高速道路 浜松サービスエリア(下り線)敷地内に整備し、平成30年10月3日から運営を開始しました。

(上期業績)

○営業収益は、321億円(前年同期比16億円増)となりました。

これは、国・地方公共団体等から受託した工事出来高の増加によるものです。

○営業費用は、288億円(同17億円増)となりました。

これは、国・地方公共団体等から受託した工事出来高の増加によるものです。

○上記の結果、営業利益は32億円(同0億円減)となりました。

(3) 中間純利益

○中間純利益は、145億円(前年同期比143億円減)となりました。

これは、前期に計上した厚生年金基金代行返上益(特別利益)223億円及び法人税等調整額68億円の反動により減少しています。

3. 通期見込

(単位：億円)

	2018年度 通期見込 A	2018年度 通期見込 (2018.6.7公表) B	増 減	
			金額 A-B	% A/B*100
営業収益	16,339	17,064	▲724	95.8
高速道路事業	15,528	16,271	▲743	95.4
(料金収入)	6,819	6,449	369	105.7
(道路資産完成高等)	8,708	9,821	▲1,112	88.7
関連事業	811	793	18	102.3
(休憩所事業)	324	328	▲3	98.8
(その他)	486	464	21	104.7
営業利益	91	22	68	406.7
高速道路事業	46	▲18	65	—
関連事業	44	41	3	107.6
経常利益	102	22	80	455.1
当期純利益*	59	15	44	393.7

※当期純利益は、「親会社株主に帰属する当期純利益」を記載しています。

(通期見込の摘要)

○料金収入（前回 6,449 億円→今回 6,819 億円（369 億円増））
・上期の交通量の状況を踏まえて、料金収入を見直しました。

○道路資産完成高等（前回 9,821 億円→今回 8,708 億円（1,112 億円減））
・事業の進捗状況を精査して、道路資産完成高を見直しました。

〔※なお、当社は、完成した高速道路資産を、その建設に要した借入金等の負債とともに、機構に引き渡します。このとき、引き渡す資産の額を道路資産完成原価（費用）に計上し、同額を道路資産完成高（収益）に計上することから、損益には影響しません。〕

○休憩所事業営業収益（前回 328 億円→今回 324 億円（3 億円減））
・上期の店舗売上の状況を踏まえて、休憩所事業収入を見直しました。

○その他関連事業収益（前回 464 億円→今回 486 億円（21 億円増））
・受託事業の進捗状況を精査して、受託事業収入を見直しました。

〔※なお、受託事業については、高速道路区域又はその近接部分における工事等を第三者から受託するもので、金額規模によらず損益への影響が限定的です。〕

○高速道路事業営業損益（前回 ▲18 億円→今回 46 億円（65 億円増））
・上期の交通量の状況を踏まえた料金収入の増収などを反映しました。

○関連事業営業利益（前回 41 億円→今回 44 億円（3 億円増））
・休憩所事業について、商業施設の維持管理費用の減少などを反映しました。

以 上